

プロジェクト科目 議事録

2006 年 11 月 12 日提出

プロジェクト科目 テーマ名 小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究	
記録者氏名 H	学生 ID -
日時	2006 年 11 月 10 日 (金) 15 : 00 ~ 18 : 00
場所	寧静館 501
議題 昼休み会議の報告 小学校学務幹事が大学で行った講演会の報告 WSの企画について（感情表現か、象徴表現か）	
参加者 A B E G H T	
記録 1・昼休み会議の報告 ○決定したこと ・WSの日程 1月10日（水） ・WS当日に使用できる時間 午前中および13時25分～14時50分 ・来週末に企画書草案を作成する。 ・EVE祭期間中に小学校に企画を提案したい。 ・1月10日 観世流能楽師 a、金剛流能楽師 a の参加が可能。観世流能楽師 b、金剛流能楽師 b にも協力を要請する。 ・1月23日（火）最終報告会（予定、来週水曜に確定） 2・11月9日に開かれた小学校学務幹事の講演会について A が報告。 A) 学務幹事の話では同志社小学校では 「人と人との出会いを大切にする」 「体験、観察、発見」 を重視して教育していると話していた。 例えば、5月8日に行われた同志社タイムで一時騒がしくしたことに對して、後で児童にそのとき相手の気持ちはどうだったか振り返らせると、「それはいけない」「恥ずかしい」などの答えが出た。 3・WSの企画について A) WSの企画について、テーマから考えるか方法から考えるか、メンバーの立場が分かれている。しかし、テーマと方法、両方バランスよく考えなければならないのではな	

いか。今日、出席しているメンバーのほとんどがテーマから考えているので、今回はあえて方法から考えてみたい。

・ どういう形でおこなうのか

A) 私の考えでは7月は「教える」という形が多かったので、「自分たちで発見」することは少なかったように思う。見て発見したことを体験するプログラムというのはいかがでしょうか。鑑賞を取り入れる意見は多かったが、ただの鑑賞ではなく、児童が積極的に見ることのできる「観察」という意味合いにしてはどうか。

G) Bがe-classで、感情表現をテーマにする場合、面が無いというのは致命的ではないかと言っていた。しかし、事前学習で面の作成を取り入れるのは時間的に無理だろう。直面^{ひためん}についてももう少し勉強する必要がある。

G) 春の総括の反省点で、児童がどう思ったかを確認する方法が絵日記以外にあまりなかった。例えば、ストーリーについて児童に手を上げさせて答えさせるなど、WSの時間内で児童と能プロメンバーがコミュニケーションできる時間があるといいのではないか。質問コーナーみたいなものは何でもいいと思う。前は私たちと児童のコミュニケーションがなかったので反応を見る機会を作りたい。

G) 方法として「観察」という手法を取り入れるということは「児童が座って見る時間」があるということか。

A) それだけではなく、7月より児童が主体的に関わることのできる形を考えている。
A) ただ感情表現を切り取って見せたり、体験させたりするのではなく、一連のストーリーの中で、象徴的な表現や感情表現を能特有の魅力として伝える事ができればいいのではないか。

話が進展せず、しばし沈黙する。

A) Dの案には仮設舞台を取り入れたいと書いてあった。仮設舞台は、どうしても本物よりも劣ってくる。その中で舞台の魅力を伝えるよりも、逆に舞台がないからこそ出来る事を取り入れてはどうか。例えば、舞台があると能楽師と観客の間にはある程度の距離が生じるが、舞台がないWSでは児童が能楽師の演技を近くで見ることができる。

E) 舞台があると一方向からしか見てはいけないのでは、と思うかもしれない。いろんな角度から見ると、舞台はないほうがいいのではないかと思う。能楽堂などで行っている体験教室や鑑賞教室では、能楽師の後ろから見ることはできない。舞台がなければ後ろからも見ることができる。

A) その方が観察に近いと思う。

G) メンバーがどんな仮設舞台を想定しているのか分からないが、「何のために」仮設

舞台を作るのかと言えば、私は児童に能舞台の大きさを実感してもらうためだと思う。能楽師がどれだけのスペースで舞って、何人舞台に入れるのか、狭いのか広いのか、それを見せるなら意義があると思う。しかし、本物を模しただけの仮設舞台なら、なくてもいいと思う。

A) 現代劇との比較、というのはGの企画がもとだが。

G) 比較ができれば面白いだろうと思った。私は「方法」からではなく「テーマ」から思いついた。感情表現なら比較しやすいと思った。

B) 「この動きがシ奥尔です」とかではインパクトが薄いと思う。能の話の一部分をピックアップするとしても今ひとつイメージがわからない。舞なら動きが大きいことなどからインパクトがあるといえるが感情表現だけをピックアップしても面白くないのではないか。

G) 私の理想は、まず事前学習などで曲のストーリーを取り上げ、その1シーンを能楽師に舞ってもらい、「今やった感情表現はこうです」と解説する、というものだ。

E) ひとつの演目の中でどんな風に表現が使われているか、どのように象徴的に表現されているのかを見るには、ストーリーが分かっていないと理解しづらい。取り上げる演目を1曲に絞って考えるほうがいいかもしれない。

A) ではテーマを感情表現に絞るか、もう少し広げて象徴的な動きも含めるか。

B) 感情表現か象徴表現かということではなく、どこをどうピックアップするか、強調するかということだと思う。

(このあとも話は続くが、混乱気味になってきたのでTが助言をする)

T) まず、段階的に話を整理しないと先へ進めない。今、「感情表現」と「象徴表現」の2つの言葉が出てきているが、この2つの関係が曖昧である。「感情表現」と「象徴表現」を区別して考えた時、どちらを伝えたいのか。象徴表現の面白さか、複雑な心理描写か、ひとつ区切りをつける必要がある。

もうひとつ、春は能楽師が教えただけで能楽師自らが舞ったわけではないから、いくら話を聞いたところでパフォーマンスをしなければ、本当の素晴らしさは分からない。その意味では能楽師のパフォーマンスを児童に見せるのは有効である。とはいえ、ただ児童を静かに座らせてパフォーマンスを見せるのは難しい。しかし今回は、児童が7月のWSを経験しているので、能楽師に対して親近感を持っている。赤の他人の演技に対する反応とは違うはず。また、面をつけていると能楽師の顔が見えないが、^{ひためん}直^{めん}面（注：面をつけないで演技すること）でやればいつもと違うと感^じじるのではないか。さっき話に出ていた「観察」という方法を用いるならいつもより1歩近づいたところで見ること^もできる。そのような方法は、2回目だからこそうまくいくのではないか。

象徴表現については、メンバーが面白いと思うものをあげてプログラムにしてもいい

のでは。ただし自己満足に陥らないこと。あとは「2 回目の意義」をはっきりさせておくことが大事だ。中身は情報収集して児童のことを考えながら決めてもいいのではないか。ただ基本方針だけは固める必要がある。春と秋の違いをはっきりとさせ、説明できれば良い。

その後、テーマを感情表現から象徴表現に広げることにして、演目はどうするかという話になる。演目の数はどうするのか、どういった場面を使うかなどはとりあえず各自が調べてみるということになる。

G) 話を整理すると現段階での決定事項は、

- ・ 能楽師にパフォーマンスをさせて児童にいろんな角度から見てもらう
- ・ 演目を絞る
- ・ 感情表現から象徴表現に広げる

の3つ。

A) あとはWSの位置づけを考えるべき。小学校への企画説明の際にも必要だし、ウェブにも影響する。

T) 同志社小学校の先生方には、事前に説明しておかないと「児童が入り乱れて見ているのはいいのか？」と聞いてくるだろう。コンセプトを明確に伝えるべきである。

A) 1月のWSでは、能楽師と児童の距離が近づいてほしい。一般的なWSだと、児童と能楽師は私たちのWSのようにはつながらない。ここを「ウリ」として押し出すべきかもしれない。

T) そういう中に感情表現が入ってくるのも面白い。見た後でやってみようと思わせれば素敵なのでは。

A) 同じ能楽師に何度も教えていただく事で、小学校と能楽師のつながり、児童と能楽師のつながりができ、このプロジェクト終了後もつながりが残るかもしれない。小学校が、大学を介さず能楽師とつながるとしたらすごいことだ。

T) きっかけがなければなかなか人と人との出会いは生まれない。わたしたちが能楽師と小学校をどう取り持つのか。よりよい方法を話し合っていくべきだ。

《今後の予定》

- ・ 企画書は24日までに仕上げ、11月末には小学校との企画会議ができるようにする
- ・ 18～19日に企画書草案作成
- ・ 演目探しとプログラムをつめる(11/14、11/17)
- ・ 能楽師との企画会議(11月20～24日で来校可能な日)
- ・ 13日に、WS実施日と、企画会議に向けての小学校側の予定はどうか問い合わせる
- ・ サイトツリーの細かい部分の作成(来週の水曜日まで)